

第6分科会

テーマ(子育て文化につながる食育への取り組み)

会場(パシフィックホテル沖縄 万座の間)

参加者数(200人)

幹事:沖縄県 あいのもり保育園

座長団:熊本県 合志中部保育園/沖縄県 さつき保育園

助言者:鹿児島県 清水保育園/琉球大学 教育学部

意見発表者:福岡県 つばみ保育園/長崎県 もはら保育園/宮崎県 塩見保育園

記録:沖縄県 秋津保育園/沖縄県 仲原保育園



1. 意見発表趣旨

発表1「テーマ:心と身体を育む食育実践」

「発表園:福岡県 つばみ保育園」

研究の動機・ねらい

…近年、私たちの食生活は豊かになってきたが、「食」の大切さに対する意識が薄れ、生活習慣病の増加や食文化の消失等、様々な食に関する問題が広がっている。

…このため、保育園給食のあるべき姿を、今までの取り組みを基盤として、さらに一歩踏み出した取り組みを考えていく。

研究内容

(1)園では、これまでも保育の中で給食も重要な位置を占めると考え、以下のような取り組みを行ってきた。

…3歳児以上にも暖かい主食の提供、…陶器製の食器の使用、…クッキング保育
…手作りおやつ、…食べやすい調理の工夫、…アレルギー児への対応、…お当番活動と職員での配膳、…給食時間に介助をしマナーを伝えていくために、…給食

時間中のBGM、サンプルケースとレシピも準備

現在示されている「食育」の方向性に沿っているものであると感じ、ここで、もう一度原点に戻り、これらを基盤とし、方針と計画を練り上げていく。

(2) 食育委員会による食育計画の作成と朝食アンケートの実施、野菜くずを使用した土づくり、「食卓の向こう側」講演会などを通し、これまで取り組んできた食育と合わせ、継続し、見直し、一步踏み出した取り組みをしていく。

結果及び考察

食育の取り組みを推進していくには、どのような配慮や連携が必要であるかが理解でき、朝食をはじめ、食がもつ大切な役割を保護者に伝え、食に対する興味関心をより高めていけるようにしていきたい。

助言内容

1. 食育計画は、保育園の現状をきっちり把握して作成されており、計画性をもって実践しているので、とてもいい。

2. 野菜をおいしく食べるには、みんなで一緒に和気あいあいと楽しく食べることが大切である。

3. 食育での取り組みでは、園児たちを、どういう状況で卒園させるのかという目標設定が必要である。

発表2「テーマ：食といのち」

「発表園：長崎県 もはら保育園」

研究の動機・ねらい

平成17年6月、食育基本法が成立した。外食の利用、食事の形態や作法の変化が激しさを増している現在、栄養のバランス、食の安全性の問題など、食べることの尊厳が失われている。以上のことから、食育へ取り組むこととした。

本園は、浄土真宗本願寺派が推進する「まことの保育」を取り入れた保育園であり、仏教行事を行っている。仏教は、殺生を禁じており、実際に殺生する調理体験は、矛盾しているが、殺生することで、得られるものがあると考えた。

研究内容

(方法) 魚(あじ)を生きている状態から調理し、試食する。

対象：年中、年長児とその保護者。

(経過)・平成19年10月20日 活魚運搬車到着

..... ・海水を張ったプールにアジ 50 尾、タコ 5 匹が移された。
.....
..... ・調理開始
.....
..... 生きている魚に包丁が入れると「かわいそう」という声があがる。
.....
..... エラや内臓が取り出されると「気持ち悪い」という声が聞こえてきた。
.....
..... 刺身にして、皿に盛りつけられると、「おいしそう」という声に変わった。
.....
..... 親子で合掌し、楽しく食事する。
.....

結果及び考察

..... 生きものが、切り身になるまでには、「かわいそう」と「気持ち悪い」という段階を経ているのである。私たちは、この「かわいそう」と「気持ち悪い」を人まかせにして、「おいしい」ところだけをつまみ食いしている。
.....

..... いのちをいただくということは、このような段階の上に成り立つことを親子で確認できた。そこから、食を粗末にしないことや、食への感謝の気持ちが生まれ始めるのでは、ないだろうか。
.....

..... 来年も実施してほしいとの意見が聞かれ、有意義な食育体験活動であった。
.....

..... (問題点) 生食から生じる食中毒、アレルギー
.....
..... 包丁によるケガ
.....

助言内容

..... 食育基本法を基に実践しており、すばらしい。アレルギー等に関しては、その後の子どもの状態を観察することが大切である。(下痢などはないか等)
.....

..... 魚介類を使用する場合は、夏場を避け、よく洗浄し、2 時間以内に食すると食中毒予防になる。
.....

発表3 「テーマ：子育て文化を育む～子育て文化につながる食育への取り組み～ (食育計画作りから学んだもの)」

「発表園：宮崎県 塩見保育園」

研究の動機・ねらい

..... 食育基本法の制定で、保育園の「食育」への取り組みがこれまで以上に求められ、保育の専門性が問われている。そこで、園独自の「給食計画」を「食育計画」へ3年間を目処に移行するための検討と実践を進めてきた。ねらいとして、「食」への関わりをどのようにまとめていくか、クラスの連携、園全体での食育活動の定着を目指す。
.....

研究内容

..... 1年目はあまり変化がなく、2年目から書き示すことにより、食育の目的が明確になる。食育活動を4期に分け、月・週指導案に取り込めるようにすることで、
.....

3年目にはクラスの連携や活動の幅が生まれる。また、市や調理師会などが携わる『子どもお祭り広場』の参加することで、食の関心を高める場、食育へのアピールにつながっていった。

はる・・・サチ、ミトトの植付け、梅ちぎり、梅ジュース作り

なつ・・・夏野菜収穫、きゅうりの浅漬け作り(園児がビニルに入れて揉む)

あき・・・梅ジュースの試飲、おもいパーティー、保育参観

ふゆ・・・冬野菜の収穫

結果及び考察

3年目にして食育の取り組みに変化が見られてきた事を確信する。
[季節ならではの旬を活かした料理、行事の料理、地域の産物の理解や生産者との交流、外国文化への興味の広がり、栽培やクッキング等の実体験、保護者や地域とつながる・結ぶ保育の大切さ、年齢・発達を見通した食育のあり方]

子育て文化につながる「食の文化」として伝え続けていくべき大切なもの

イベント的に終わらず、長いスタンスで進めること。

課題：野菜だけに片寄らない、様々な食材を利用する、低年齢児の食育の関わり、健康作りを考える、子どもが抱える食問題・保護者への働きかけ

食育活動の一つひとつが、『育児支援』として意味を持ち始めた。「正しい食事」を選び、「食を楽しむ」「心も体も元気に育つ」ことができることを願う。

助言内容

保育士の立場としての発表だった。保育士と調理師のそれぞれの立場から向き合うと対立が生まれるが、「どういう子に育てたいか」方向性を明確にして向き合うことの大切さ、連携の良さを実践発表を通して、得ることができた。「イベント的に終わらず、長いスタンスで進める事」が、食を考える時に必要だと思う。

